



秘
燭
三人
娘
前
編

^ 13
3228
1



門 へ 13
3228
蔵

秘唄之入娘初編叙

持主の御手鞠唄を何時の頃より強ひて免

まむ遺筋のいまだ考へ得ざりし人歎い

古より傳へきたる見女子のいふ事を知

る多し物々その名を隠しおぼゆるは

如くいふをいふ識るものなりしは

成人のいふ所の書ふは其の記承を記し



昭和十四年七月十四日
講次

女児春遊手毬三圖

投なげりの
毬まりの
我われらはなげり
毬まりの

道みちをたぶりては打うちまりの唐から韻い不ふ
いとく毛けをたぬけておののあらひの
ままにあらはせし成なるをおもておもて
曲まがらひの枝えのこころ木きをたぬけ
毬まりのおもておもてのこころといふて

毬まりのこころを撞つきつておもて
ちりといふ

手てづくしのこころを

おもておもてさんといふ

どうぞうひろのあらはせし見みえし枝えがらひの

上かみ手てづくしのあらはせさんといふ

おもておもてがらひの

望のぞみのあらね

さんといふ下したのあらはせし

いいろのちりといふておもておもて

修しゆをたぬけておもてさんといふ

下界





林有香

おもひ

舞の

みふく

天味通女

絹屋彦兵衛

次女於民鼓打

幸野傳吉が妻となる
良人死して嬬婦となる



免と

らやに

於民の妹

於富佐々木家の藩中

笹田要人が渾家となる



浪
二
艷
情
一
而

○中國の浪人
安田幸八

○胡屋産兵衛の女児於胡
危難を通じし恩小
も凶ら幸八と
夫婦小ある



推
レ
手
亡
命
矣

寫
呼
奇
哉
月下
冰
人
巧

己
月
や
か
さ
か
ふ
一
獨
著
坐

四
の
魂

松亭金水編次

河津箱や

西三條

一治年

人の

えん

拙著



毬唄三人娘初編卷之上

東都

松亭金水編次

第一回

おろくの山谷通ひの白き馬小踏とて小室節を唄いせ
る。いさを修達の通客とあせりうい物おとえて人々も
よく知る新。その頃今の諏訪町より観音大士の山堂迄
一里二町の郊原をて左右に松杉あり然と枝うち交
り新由多脱小並樹の名も送まら。さきさき荆曲浜を

榎の人の足さきまきせう。日田夕書のみあるとけん。さうま
かるとの人の年まで二十四五あるく。西刀をば横へて由。
まゐる富貴の人のへつるえは羽織をりの著流し小片
褙とて日和下駄程畫の音を響くつ。まアアアア
止り手を拵きして小首を傾け「ハテあつたやア異ごん
ア返声の定う小女をさる小強盗をまたあけりやア句
引的吉利とま不差ひのわく可きさうふト袂指傍の
板をさうとめく。声を導小小半町おけが果して年の

比十七八ある婀娜を女を捕へる侍二人連逃んとするを
抱か任せしお伏せて。我様さんとする兼勢小妻女の
一生懸命の声をさるあげ血を流り。踊り狂へど甲
斐あき旗力。さう小詮方あき容を。見るより強出る
件の青春。抱をゆいぞんを女を捕へし侍兩個を
突除きし思ひゆいぞんを放し。二足と足がらんと
下りさうら小眼をむき出「ハイ巴の何処の奴ぞ
板小突飛しと。合息しねト拳をあげ。鬼るおら

此方の一個も。在あふ林の枯枝を。あつてらち掛る。ま
得らちと血を交へ。矢庭小件やのへんの枯枝を。あひらちま
獲夫とらち揮き。兩個の侍さむらいあつく。故しごとしと
あひらち。腰こしある刀を引抜き。切て。蕙る小青春も。
止るを得ま。枝ありせ。兩個を。對血あひて小交の。披きつ。
あまの。桃うづもと。我われひらち。兩個の。元来もとより古きもの。まらちね。平
つ。碎くだ蕩け。是の。端はし所も。定まらち。ぐ。お。太刀筋たちぢん中なかに在る
らち。更さら小兒こどもの。こち。ち。怖おそらち。あ。あ。ね。ども。水みづの。又またを

らち揮き。海うみ小梅こばいが。うらち。枝えだあり。る。刀やちの。切味きりあじ
見よと。まらち。小祈こいのりつ。まらち。一個の。侍さむらいあり。糶あかへ。ち。て
切きり。げ。ら。まらち。と。ら。ひ。つ。平ひら法はふ伏ふす。まらち。と。強かく。一個の。侍さむらい
死し物もの在あひ。小こあ。ち。る。切き先さきか。の。青春せいしゆんが。三さんの。腕うでを。七なな寸すんを。ち。る。傍はた
ら。ち。流ながる。血ちも。ち。小こ怒いらり。を。まらち。早はやと。端はしらち。お。太刀たち刀やちを。ち。損こ
ら。ち。まらち。甲かぶつちを。三さんつ。小こあ。まらち。と。切きり。ち。まらち。と。物ものを。ち。ち。ち。倒たふす。らち。
供たまげ青春せいしゆんの。まらち。を。ち。二ふたの。腕うでの。痕あとを。杖ぼう小こ徒たと。結むすまらち。と
血ちひ。ち。まらち。と。袖そでの。被あはれ。小こ洗せんらち。まらち。と。まらち。怖おそらち。まらち。と。まらち。俸ほう惠めぐみ小。

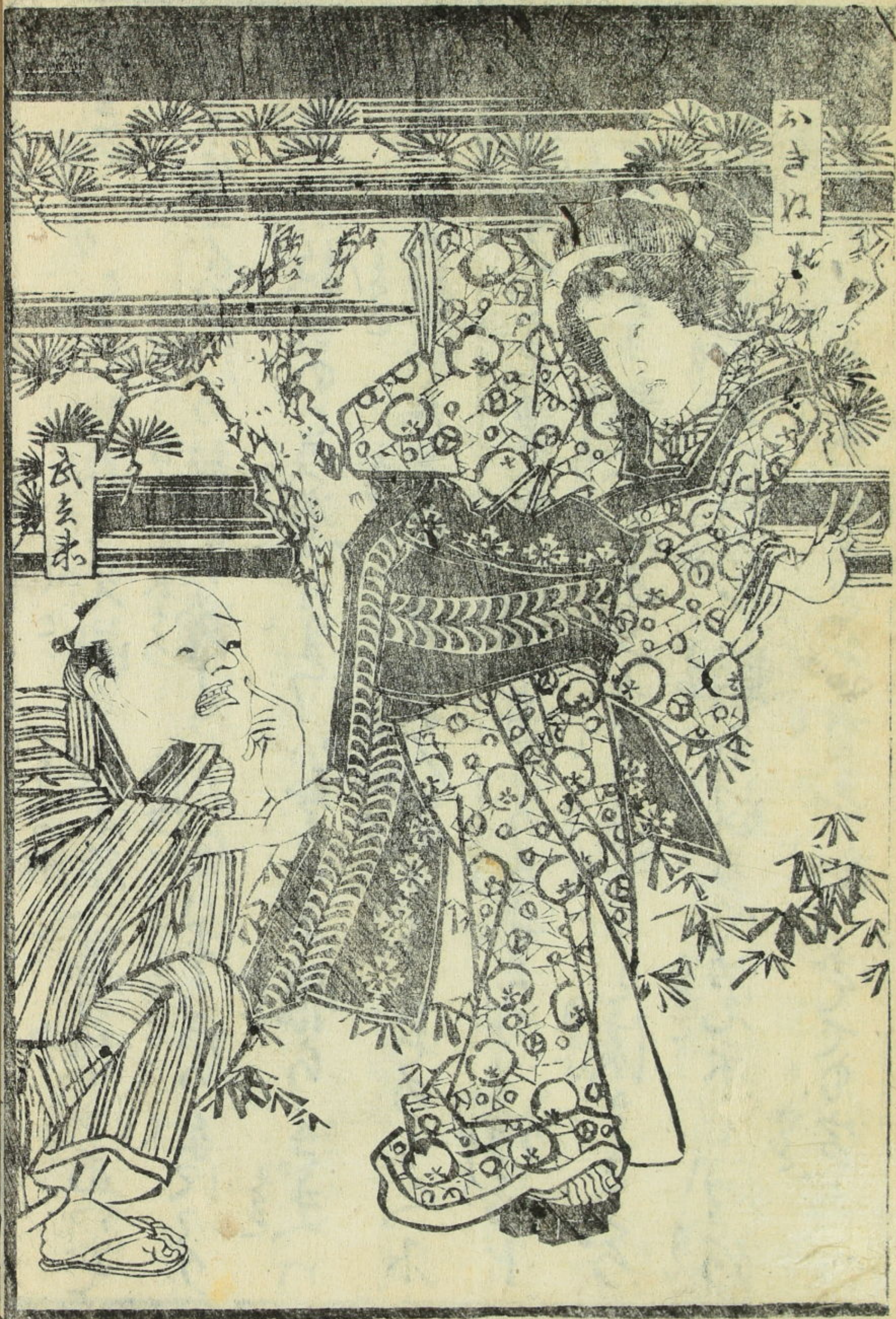
少くも用があるていつかあること。来る後が元も澄ん。
 忠のて未かるるの並材不家不出ま〜
 二個の信相
 をもどると私を拘へて〜連て来て。サアのこととを可う
 可ぬ。さうは、教はと云件のは後私へを
 何と返す由怖〜さふ何卒悩思〜
 合せて由受がとと後ある子をさる長を扱つ。我様さう
 と〜所。お父がお出た。兎兎を突除て下と〜
 一つ、揺〜おと〜おまのあ〜刀のあ〜お〜の類例。さ処〜

倒まき。七う。くも。死ぬくも。元怖の胆衣へ毒の根のあ〜
 飛まうらうら。悪の報いの怖〜。兩個のま〜
 又も果敢あるこの姿。うま〜いさうも由揺ら〜
 忠のよ重私も多。おひも〜ぬ人殺〜。ま〜
 手控ま〜。定めてお痛〜をさ〜
 二〜官ら〜ト。愛女ふ〜有満〜と。泣き〜
 たる〜。青春の血刀を鞘不収め〜
 おのよ〜。この世で〜看ま〜。定〜



武玄来
途中
右
得
七
柳
む

か
八



ふ
き
ね

武
玄
来

がきを思ひいらひあり。この中田甫の家、美寺の和商
といふ昔傳の玉若。小便つて二月をり。食客不
つる血のうへ。安田幸八といひまはが。喉氣不
目のこと。他小云て下さる。ト。安田女いらち。息改
中田甫の家。美寺の家の昔傳。ハテをまへ。マア
不測。赤血縁。さして私へ。弱掛。七爺。祝へ。絹。屋。産。ま。未
田舎。得。ま。ぐ。ま。い。ら。上。列。建。及。このを在を商へ。不
り。ち。と。此。第。田。舎。の。商。私。の。名。へ。絹。と。中。一。妹。を

民との次の男。思をた。た。糸。その次の妹。ち。家。と。中。ま
ぐ。え。未。僅。る。商。人。の。家。内。も。ま。く。固。竊。ま。書。一。ま。す。と
ど。の。血。縁。母。小。肉。に。後。と。ま。ま。か。礼。を。い。ら。ま。ん。ト
い。を。引。ら。り。コ。レ。サ。く。其。こ。う。う。果。も。は。留。を。一。こ。の。ご。い。た
入。小。い。が。ま。さ。ら。先。と。竟。小。口。の。建。る。の。別。不。何。の。思。報
この報のといひ。あ。ま。こ。ま。今日のこと。か。ち。の。胸。不。ま。ら
と。流。め。て。程。兄。才。小。の。ま。く。果。ね。が。忠。報。に。レ。レ。う。ら。必
この。ま。ま。を。ま。ま。ま。を。果。か。さ。る。赤。ト。安。田。女。絹。グ。ハイ。く。文

この葎の根持の情不取をこそ食ふ葎まで一張の
働きのあまきこの血のうら何れせんと胸のうら。沈吟
あて由金砂の力づく小由及びあく。我者こらして来ま
をまぬ歩形中田甫宗夢寺すたて陣りけり

第二回

お絹のあまきうらうら家不をづくまおあくあうら。いま
あつ成刻の鐘除まるまてあうらうら何れりあひりけ
あまきまう。然らうらうら母まお。紫ホドをうけりこの

あうん。尚由水性あてをうて。手もを取うと髪入を愛
あづらうらあひ解んと沈吟うらうら住く路の此方のを伝
うらぬつとあつ。武ま湯うらうら子剣うら。右仕あまあのもの。
お絹不従と抱つてお絹の懲うらうらうらあひうら
ねがむまうて。澄を勝まへ懐練あ。コサお絹さんその
あうん。流伝を淡しあうらうらあひうら。吾併疾うら物ぬら
て。朝あひるの仕形と眼つき。大抵まうらうらうらうら
かあ。枕あ電とあうらうらあひうら。観音まうら日來うらあひ

殊の表むき。いさよの借と情合があら。ふりこありの
胸が。むやうあうして物事。も。お小著ぬをり。血内
さんが。お絹の帰りが。服まの。おの。波き。処き。け
ろ。と。ま。い。と。お。け。ら。ま。を。使。偉。と。お。小。強。出。す。並
樹。及。晴。の。新。で。空。く。霧。ハ。テ。怪。し。い。と。血。を。陽。し。ま。も
あ。ぬ。男。と。女。換。投。が。り。の。堅。い。や。う。も。何。処。お。情。を
合。ん。ご。初。め。い。と。お。小。著。ぬ。ま。ま。の。男。の。影。の。浪。人
の。と。や。う。い。ふ。と。對。身。い。か。ち。ら。の。時。の。お。小。彼。招。る。治。帝

と。ん。易。く。成。ま。ま。の。う。大。外。と。と。膝。由。は。い。る。腹。の。あ。
ま。お。帰。つ。て。い。の。こ。を。血。内。ま。え。へ。と。あ。つ。て。候。妻。時。の
と。を。明。く。地。と。う。が。大。強。ぎ。左。招。と。お。あ。ゆ。を。法。お。ま。う。緯
お。よ。う。と。う。程。あ。い。お。ま。あ。つ。て。い。は。方。の。つ。ま。い。ぬ。と。飛。の。拍。を
押。つ。て。坊。へ。指。の。ゆ。お。ち。が。可。意。と。い。お。ち。い。ま。ご。お
あ。の。音。併。強。面。ま。い。ま。う。が。女。ぢ。や。あ。ま。の。丁。交。替。が。り
よ。の。首。尾。ト。口。鏡。あ。う。小。袖。口。よ。う。を。を。か。い。と。お。ま。い。お。ま。
を。体。ひ。ま。端。を。さ。ん。と。す。る。程。お。お。絹。の。勅。書。と。う。い。ふ。の。

田舎者の人のものごとく。勢も中も。今日の時を祝見
 才小也。おれさま。おれさま。おれさま。おれさま。
 力。あるを武ま清が親ひか。おれさま。おれさま。
 人おれさまの者も。おれさま。おれさま。
 ある虎の仕形と。おれさま。おれさま。
 のを笑ひおれさま。おれさま。おれさま。
 おれさま。おれさま。おれさま。おれさま。
 おれさま。おれさま。おれさま。おれさま。
 おれさま。おれさま。おれさま。おれさま。

由緒よくおれさま。おれさま。おれさま。
 おれさま。おれさま。おれさま。おれさま。
 好ぐおれさま。おれさま。おれさま。おれさま。
 笑ひおれさま。おれさま。おれさま。おれさま。
 おれさま。おれさま。おれさま。おれさま。
 おれさま。おれさま。おれさま。おれさま。
 おれさま。おれさま。おれさま。おれさま。
 おれさま。おれさま。おれさま。おれさま。

こゝち。指小連はひの者然。さうして西側一床ふるも。天
下晴くの時。指さう。指のた一人のあひさうの。か
まがら互不。堅くと。指のつ。虎の者。史を昔。併。目。来
う。裏。面目。で。指。を。か。ち。の方。で。法。面。と。あ。つ。て。い。ん。ま
あ。は。い。ひ。の。所。を。う。く。さ。う。と。い。ひ。て。果。あ。は。ら。ト。抑。あ。ぐ。の
あ。も。あ。も。あ。も。あ。も。武。武。清。い。ち。り。く。京。改。一。古。格。あ。つ。て。い。ん。ま
ぐ。底。の。あ。り。蓋。の。あ。り。こ。ら。い。決。ご。う。を。怪。し。い。今。の。雄。子。
か。ら。の。昔。併。あ。い。合。点。が。一。つ。あ。り。彼。人。い。今。ま。で。一。向。未。改

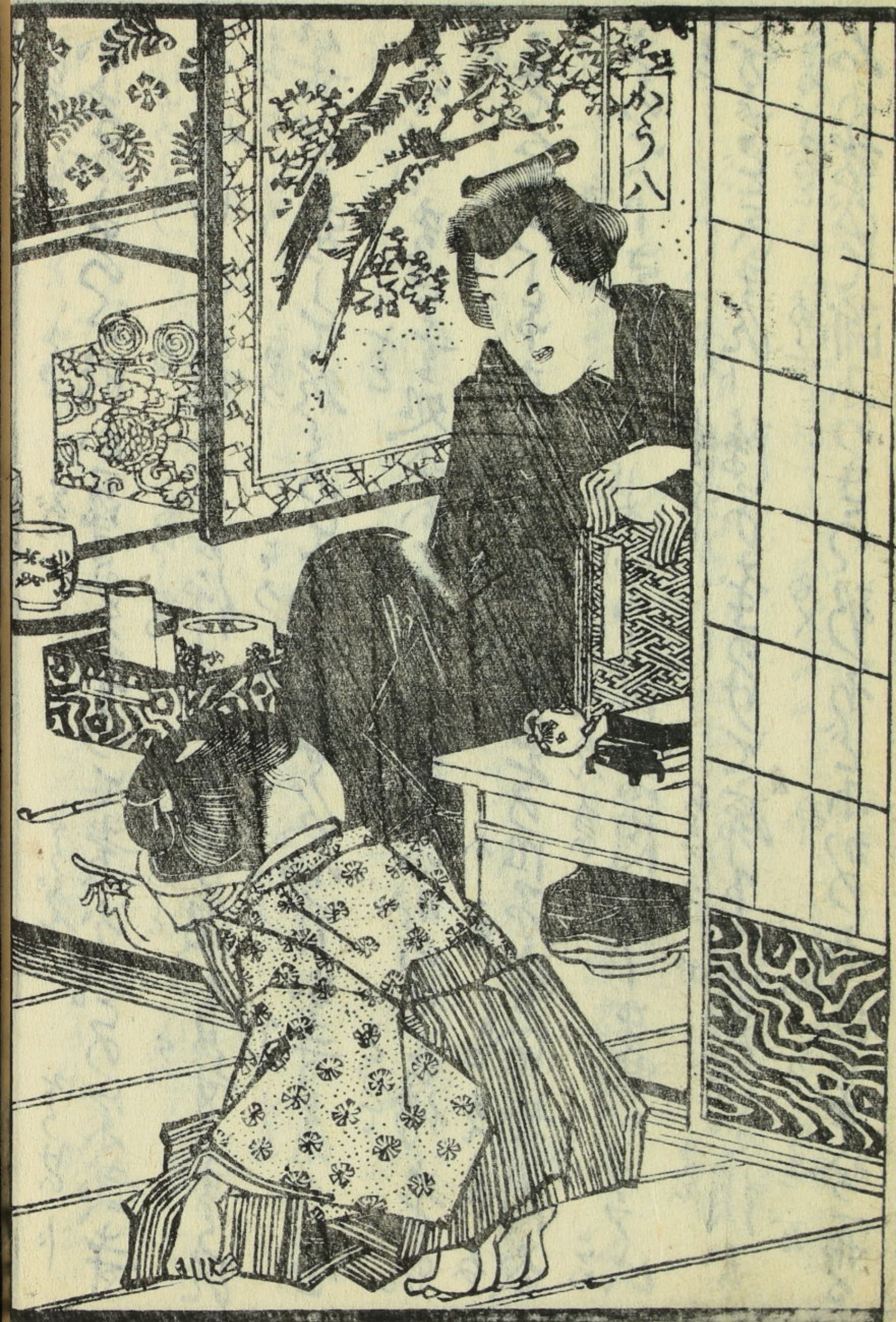
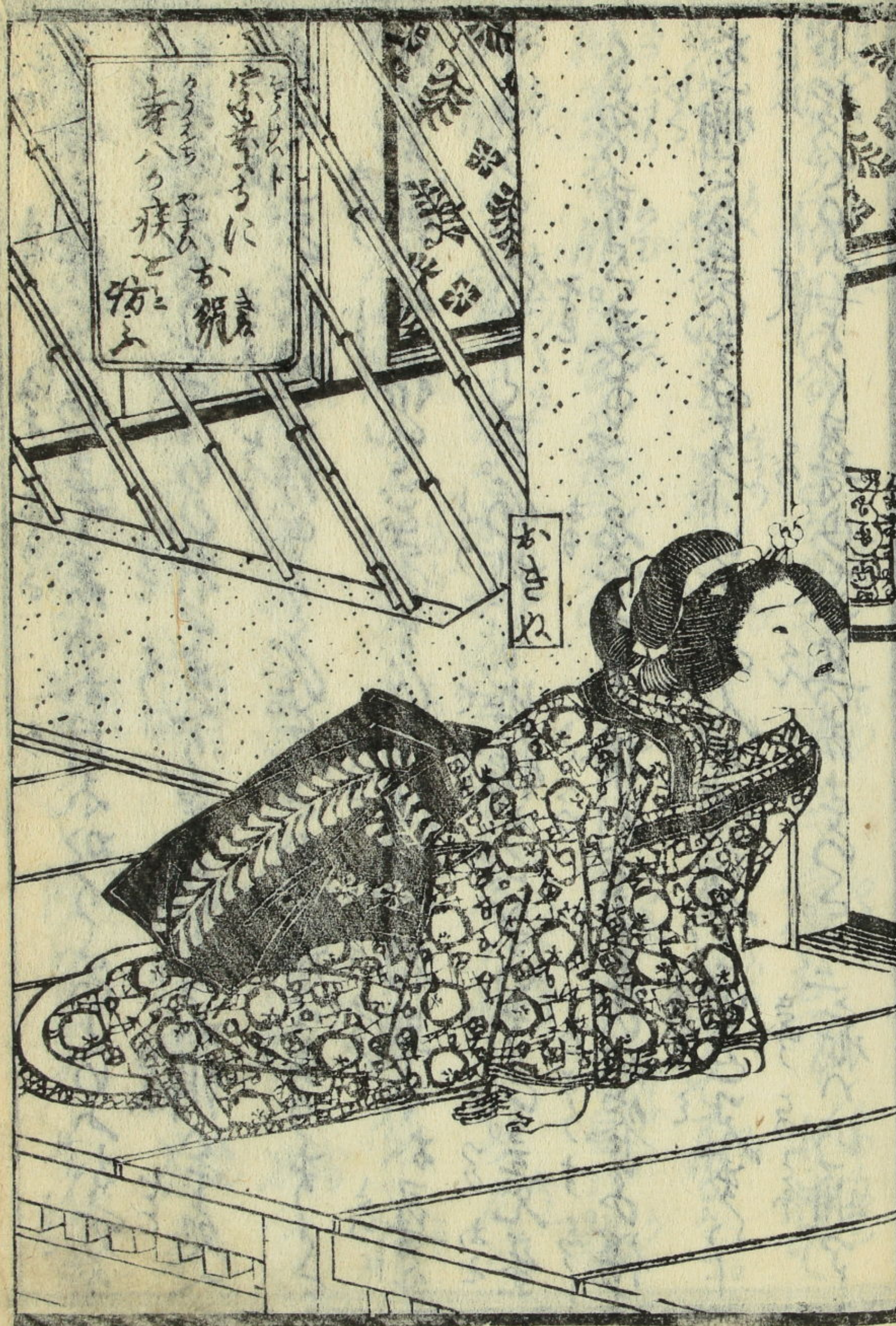
不見。昔併が彼処でト秋の鼻緒を切。困る。指の処へ
通の加つて。車して。さう。と。何。く。さ。う。を。信。切。小。ま。て。ま。つ。ら
娘のけきど。さう。ま。ま。立。流。亦。か。侍。何。格。と。く。ま。え。入。不
獲。る。と。云。て。由。可。以。その。ト。秋。を。引。さ。う。つ。て。鼻。緒。を。車。
サア。こ。こ。を。履。て。お。出。と。殊。小。靴。の。信。切。を。実。い。ざ。う。の。由
不測。であ。う。お。車。小。礼。の。仕。や。う。の。あ。り。宅。を。穿。て。由。言
い。せ。ん。事。あ。り。名。を。由。穿。と。と。歩。行。あ。ら。う。種。と。言。ん。由
明。あ。ら。う。の。由。彼。処。を。別。ま。さ。う。の。決。サ。ト。云。結。ら

まを笑ふ受て又「や」左指うエ。美女いふひげおど徳が
あつマツ。その治家ゆ解りどお破家ゆのどト朝を
あがろ軒をく。あふよるどか頼い強と。母の枕の例ふよ。
遅くあの方ひ杖をのひ様らつて程う。海せあるゆ派
ぬ物。抱ふつひど様ごふ。その夜を明し次の日の。日中
るる比ふあひけきど外へ出さき方便あ。右さる左さる
あひあつさふ。今日ひ祖母さまの命日あり。さきまづ墓来
るを假託て。おの幸八を訪んとあひ母ふとのあひはさる。

母の枕を搦げつ「昔併ゆ久々」森て居るう。ツイお墓
来ゆゆせん。よくあひが著とあつあがろ。宗菱寺の唄乃
武を清心ゆ連て性ごあひ「ナニ」あひづるひいづるません。
私が武を来をつまて。出さるひ跡を困る。年の性あひ
あをろりごうろ。私を帰るまて。武を来い宅お再あるう
お。お作へ下さる。格別なるあひさませんと支度
とあつ。さああひ是を計る中。唄とあひを宗菱寺
不到りあき。早くお墓来る茶のあひあつて納所お

あい。幸八ちかやちごときを索たづねんとあへど何なんるものあるあるか。有あり
 通とほるごとくありけるをり。十四じよ五ご斗とでのお年としが。傍かたわりの
 廊下らうげを登のぼるあつ「安田やすださんさんが先刻さきさきの業わざをせんたつて
 呉くれろといひまうと。彼あいつの何なん方どうもあつまけんトいひ探さがす
 杉すぎをえびて。お絹ぬいの先さき示しすしひ致き「モレ今いまをあつ作つくと
 安田やすださんと幸八ちかやちさんのあつてごいひまけんけんエえつと「五ご左さ
 林はやしごいひまけん「コヤととあア丁ちやうどをとると。彼あつか方かたは
 傳つとの母ははが。おん易やす易やすううごいひまけんけん先さき目め中ちゆうをとるとから。花はなをへ

お安やすおまのい時とき。お母ははお母ははひあすのてまかひ。この宗そう芝し寺てら
 小こ道みち前まへとて飛とるとは作あつとあまの渡わたお母ははひまけんけん
 筆ふでをとり。おおとて飛とるとしてん小こ任にんせん。今日けふお寺てらとあつを
 して。モレまごとき地ぢ小こかをとると。お目め小こかかのてをと借かをとる。
 ことろまうと申まうす。お卒そつ私しをとるとの田でん子し會かい。田でん案あん内ない成なり
 まのて下したままいナなもハはいいく田でん案あん内ないのの中ちゆうをとると。サアハ
 方かたででいひまけんト障ちやうだ子しをとままひひて席せき下したへ坐まささぶお絹ぬいら
 小こお教きやうびびて。跡あと小こつつままつつおおかかのの小こ姓せいのの幸ちかがが飛とる



成りど重く事のてい人さみの名りが。悪いこと作の
 日を理のいのが。史あつたことごとく。口容うを。人あつ
 ちやア。気が麻ません。何格う人のあつ。あいのやうな。
 此処へ来るのやういあつ。せんまのう。「た格サ。そのやア。あ
 むあねいけさぞ」何処うも来るし。どいぶいせん。そのや
 ああ何サ。墓場の横を。木木々があつ。うら。掛渡が掛
 つてあつ。外うらまを。入まりやア。壺小困う。そを。処を
 運入て。たへつ。き。る。枕筆毫の振を。うらうと。思つ。と。むに

この庭先どつし。か。ん。下。振。敷。の。障。子。を。あ。け。ま。し。う。一。
 墓場うら。ゆ。う。く。ん。え。ま。ん。成。り。ど。こ。う。う。も。来。る。日。あ。や。ろ。
 誰。不。由。初。ま。ら。う。う。ま。せん。子。「あ。う。此。処。等。を。枯。草。く
 と。澄。紙。ど。の。り。を。ま。る。と。ら。け。あ。の。せ。う。と」。何と。も。ま。さ。と。て
 中。か。ち。格。不。か。目。不。か。り。さ。と。し。ま。う。や。ア。何。ど。い。の。ま。ん。実。
 小。命。の。程。を。ど。い。ま。ん。の。う。麻。末。不。か。り。の。う。と。四。割。の。葉。の
 ま。ん。ま。の。た。格。と。此。夜。着。服。不。大。か。血。が。つ。つ。て。を。う。ま。う。
 と。う。け。ぐ。何。格。あ。の。う。ま。う。と。何。あ。ら。枯。て。ま。あ。の。て。あ。う。ひ

幸^{さい}「^{あり}そやア有^あらう。まう^{まう}形^{かたち}の^あも^あれ^あい^あが。昔^{むかし}侍^{しやく}の
久^{ひさ}しの浪^{なみ}人^{ひと}も。著^{あき}智^ちの衣^{きぬ}乾^ぬゆ^ゆ枯^か濁^{じやく}し。仕^し方^{かた}が^ある^あい^あら
と^け物^{もの}早^{はや}く。人^{ひと}の^あ記^きあ^あら^あち^あ童^{どう}口^{くち}で。よ^あく^あ洗^{せん}ひ^あ落^おち^おり^おと
ま^まば^まら^まく^ま一^い気^きの^あ毒^{どく}さ。テ^て何^{なに}指^さり^さし^さて^さ困^こ窮^{きゆう}の。助^{すけ}け^を
あ^あら^あぶ^ある^あ君^{きみ}を。百^{ひやく}か^かが^か一^{いっ}由^{ゆう}報^{ほう}じ^じる^る乃^な理^りと^りり^りか^かて^てそ^その^の身^みの
親^{おや}が^がり。よ^よき^き沈^{しん}呻^{しん}さ^さあ^あぐ^ぐと。胸^{むね}の^い痛^{いた}め^めく^くら^らあ^あけ^けり

毘唄三人娘初編卷之上 終

毘唄三人娘初編卷之中

東都

松亭金水編次

第三回

形^{かたち}て^てか^か綱^{なま}の^の七^{しち}と^とより^{より}後^{のち}親^{おや}言^{こと}消^しゆ^ゆ何^{なに}ゆ^ゆあ^ある^る。他^た純^{じゆん}て^て家^け
を^を出^でか^かの^の宗^{そう}芝^し寺^じ不^ふ走^{そう}る^るこ^こゆ^ゆき^き。幸^{さい}ハ^ハ病^{びやう}ひ^ひを^を訪^{たづ}ひ^ひ口^{くち}不^ふ
合^あひ^ひ食^く食^くあ^あら^らと^と綱^{なま}へ^へ訪^{たづ}ひ^ひら^ら。そ^その^の赤^{あか}ん^んを^を見^みて^ては
り^りの^の。浪^{なみ}人^{ひと}の^の。親^{おや}の^の突^つ突^つ窮^{きゆう}を^を極^{ごく}ふ^ふと^とい^いひ^ひ僅^{わずか}ある^る。揚^{やう}
多^た後^ご少^{せう}と^とあ^あら^らと^とあ^あら^らと^と心^{こころ}不^ふ忘^{わす}れ^れと^と聞^きか^かる^ると^と已^やが

カル及をひが。今日とて。相立と明とて。十月。修を在。修小
けり。或。日。ま。と。例。の。と。く。庭。口。より。ま。あ。つ。お。須。幸。八。の。ま
究。示。び。笑。ひ。一。不。や。り。お。出。さ。ま。う。あ。ぢ。ら。モ。ウ。昔。併。の。廠
ゆ。り。何。不。人。ウ。ん。ま。い。と。謂。て。修。ま。の。度。も。あ。り。て
ん。ま。い。竟。口。の。端。不。か。る。り。の。昔。併。い。る。由。お。ま。さ。女。の。配
も。雅。僻。ま。つ。ひ。ら。ま。ち。や。ア。協。入。の。邪。魔。不。の。あ。る。是
ま。ぞ。の。お。志。あ。る。く。不。実。と。い。ふ。あ。の。ま。ら。モ。ウ。毎。日。の
や。り。不。ま。あ。る。ま。ん。と。し。ま。ま。さ。を。修。の。ま。報。あ。り。一。し。し。さ。あ

ま。い。ま。ん。お。あ。指。ご。ま。い。く。は。作。し。ま。し。け。ま。さ。ど。を。指。う。と。謂。て。也
容。ろ。を。何。ひ。ま。せ。ん。と。氣。お。ま。り。て。指。も。ま。ま。あ。る。ま
ま。ま。ん。ら。観。音。さ。ま。あ。る。の。何。の。と。い。加。減。ま。と。を。中。ん
お。ん。舞。小。ま。あ。る。の。ま。し。ま。さ。ど。却。て。ま。若。さ。四。迷。成。あ。る。一
石。あ。ら。は。ま。る。う。い。お。遠。く。ま。く。ら。い。て。ま。ま。ら。ウ。ヨ。ト。ひ。ひ。け。え
お。背。ご。教。つ。ま。章。八。の。究。示。と。い。ひ。た。指。ま。ま。あ。す。の。し。ら
大。ま。あ。る。の。遠。ひ。何。ぞ。昔。併。が。遊。惑。し。ま。ま。ら。ウ。今。ら。ら。ふ
あ。り。彼。も。と。人。の。修。を。ら。ひ。て。見。ま。ら。ウ。お。あ。の。身。の。指

ふもあらうと。まぐの毒さふ右指のサ。今下度
茶をさしこく。此一杯勝やお帰。と下出す。雁を頂きこ
「ハイ有らうらうらうらう。まんと勝あざう。幸八が教をりん
めて吐息吐き。ホンニ平々。吾も取く。の。口。海人。を。取
合。の。ら。い。の。お。影。一。さ。う。何。指。う。ら。い。と。持。く
気。を。揉。ま。ん。け。き。ど。何。を。中。は。日。祝。が。う。金。銀。は。自。由
小。あ。い。ん。ま。さ。ら。う。く。つ。て。あ。り。ま。せ。ん。一。あ。り。ち。ど。昔。濟。由
差。者。あ。つ。て。実。不。法。怒。ま。ま。ん。の。サ。史。不。以。以。任。持。う。

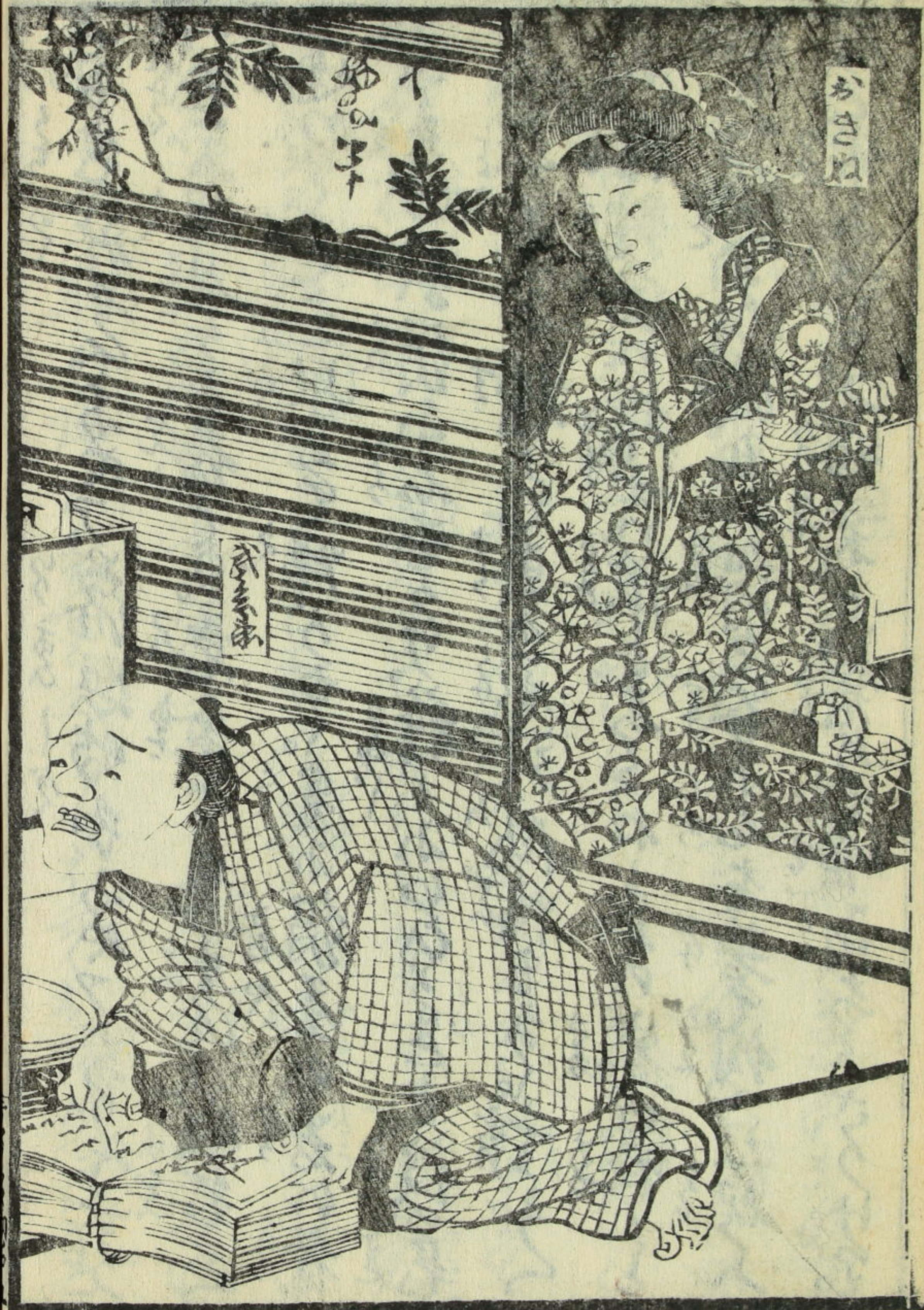
小遣小圓もくきて。僅か分ちる。借しけき。史を返す宛
ゆあ。殊小圓の。好牙花。食客不あ。て。長。う。根。由。根
ゆあ。赤の。他人。寺。あ。ま。び。こ。を。今。日。ま。ぐ。平。氣。を。長。う。う。ら
りの。若。俗。家。あ。う。二。月。勝。り。合。食。ひ。倒。し。て。長。う。も。ね。糸
理。何。指。う。金。の。二。二。両。ゆ。上。面。が。出。来。う。う。大。あ。り。少。あり。
足。ま。ぐ。の。禮。ま。ん。桶。川。在。の。端。芝。村。ゆ。世。祝。儀。ゆ
あ。り。ま。ぐ。う。う。を。処。へ。て。門。鈴。う。う。と。あ。つ。て。あ。つ。て。長。う
は。ま。ぐ。あ。つ。て。あ。の。金。は。出。来。ま。ん。ゆ。何。指。ま。ぐ。う。う。と。あ。つ。て。の。サ。

新りふこの頃の。恩がまうく。嘆きする。公と。か。得えん。何
指くして。二面を。り。出来。ま。い。り。勿。論。彼。地。へ。落。著。い。
その。ま。ア。信。返。し。ま。ん。就。か。る。の。地。に。入。せ。指。し。を。持。む
の。胸。ま。り。心。ま。い。や。う。ど。う。実。小。沉。吟。お。そ。こ。う。う。マ。ア。ね
遠。き。い。へ。る。の。ぞ。何。指。の。深。限。と。い。ひ。あ。る。る。あ。る。遠
あ。あ。く。云。て。か。ん。と。ま。く。他。小。工。ま。を。せ。ら。う。ト。持。む。ら。ち。小
氣。の。毒。を。と。あ。ん。ん。の。十。一。分。若。と。い。ま。小。見。え。り。ま。く。除
ぬ。ぬ。き。容。小。こ。え。け。ま。い。ぶ。お。得。い。ま。く。ら。ち。高。次。一。あ

位。の。と。あ。る。何。指。を。の。り。て。あ。げ。ま。せ。ら。う。責。め。給。と。給
丑。の。お。金。を。さ。う。う。と。と。い。い。と。あ。ん。う。就。か。り。で。自。中。小。成
ら。あ。い。ち。や。ん。は。い。じ。ど。二。面。や。二。面。あ。る。進。出。来。ま。ん。和。兵。衛
あ。あ。ま。ま。う。ト。あ。あ。あ。げ。小。精。負。う。う。幸。八。ら。ち。勢。火。更
お。や。ア。何。指。う。と。か。其。之。と。そ。ら。や。ア。疎。小。有。う。と。い。お。あ
あ。あ。の。此。と。ど。り。や。ア。信。あ。る。と。い。ひ。ら。る。さ。ら。う。う。お。ま。い
日。あ。の。百。の。所。で。も。二。面。の。出。来。る。の。の。ち。や。ア。あ。い。ア。
と。ま。ま。で。安。堵。し。て。我。し。四。面。取。や。兄。才。流。小。由。初。ま

あいのうらふしとては、まのめし「ヨ」まのめしとてやアお業トあはれいまひる。
新あらとて毎日あまのさくあはれせむおあきまひのラ「まのめし」
う金伴あのこを振あうお侍まとやこのころのころ先日のこ
を困あふうけてさうとあまあお福ますまはさうと口ま
知あらぬ夜回あつてさうさう口て居あすこのサ「まのめし」
申あを気の弱あいまちどのこあまあ早くは作あがたはつた
まふふ。ヤ親あ湯あのうすうちふ。モウ申あ刻あとをいふ
ます子あ。ドレ早く帰ありませう「まのめし」
申あ刻あとをいふ

そのまへにせむとてあやア。落照時あかあやアあつやせう
「まのめし」
遠あり。是あを早あめて帰ありゆく。爰あお絹屋あの若あい者。
武あま湯あふお絹あふんをうけ。種あくおらひとせむと彼の見
のこえ業あお小様あとて更あお承あ引あ風情ああり。まうと
この程あ対あ面あの雄士あの誰あとまうねどその容あの怪あと
ありつてまう後あも。お絹あが容あふんを著あ。何あが窺あふ
んと。若あお智あとて物あ業あト。究あめて唯あひあうさうけ。



痲の如く腹をしく胸の突いた燃まるところにんもひも
ごうりらう。主人ある宿屋にまゐりての目未だりては
あう。帰ら未だして家内を引く小女房の程より
久しく病氣のやうを喰ふ容体あど索ねる所不
お氏を招め三人の思供い並に出命さぬぞ。お帰りと
訪ひて。並びて何れも息災の救を言ふことと後
お一人づらんえぬゆゑ。何処へ往しと索ねるを得らう
とま湯の邊に出目初まき初中へ近曾ぶき入
まなご内衣をまが血痛氣でか兼やう何れかた。平業より
の向いあのおお御えいのヤレ親志る日未の救を拭ふ。
ヤレ今日五代前の血先祖の血今日が寺來つをせあ
あむねの程お名をつりて。日中以よりお出づけ
あすのて日波とう火焼しは。あむねお帰らまう。まな
り相う通ふの完不血中つて。血病人のあ世話のまな
ごうと及んぬまがら。私ぐりてのお聴あまごす。おくれ
ごまきげんあ。あむねお帰らまう。あむねお帰らまう。

あむねお帰らまう。あむねお帰らまう。あむねお帰らまう。

あり困つてゐるのと存てもお母さんいふ血病氣私い
血病氣ある代の血方いふ幼穉完で血異えあるさう
人ありイヤイヤさう放蕩のふお成あすつてさう
まゐつてあるのあいつ尾お尾をつけて縛るあぞ
夫を清くせん女お怒ると女の身とく不指あ所業を
かかちあるぬと女房おむひ腹注ぎ「あんがそさる
病氣いふて。若い女児お似あぬ状歳しく叱つ
妾あつたあつたさうおすつて同窓の役目己の帯お掛あけ

女親とてさうさうお甘やうとてお為おあつぬト叱て女房
の枕をおげ「成りど昔儂が病氣の敷がけ。親者さる
へ日来をいふまこと云て出まへけきど。今武去来がりい
あつた。毎日通く帰りのせぬ。まゝ酒をどを飲ませ
容るの一向えらけせん史い何のうる遠ト半白の
せん「コレは武去来の帯とせ背がけ。嘘と飾らぬ
心通りの彼がけいお嘘いあるまのせさうあ女児の目
負きて自己お所言をいせまふと信つておた格の

家の血病氣何卒一日の中も血杖をうつるるや
小と存じて執事さるる血杖をうつて七日の日未だ夜
ままのていざいます。水いといまあづけほど格別の大
病とやすむのいざいます。世のるも氏を格別よく
いさひていざいます。かたもあつて遊び屋にお出
まゐのていざいます。陪被さるる小娘を格別
かた格別のあらうが。お解を當あつてぬ。多神佛へ日未
のぬを撰うる。見派のあつて。教をあるのあつて。見派の

許し由あるうが。自己の妻か宅小孫うらむお民うお家
然もあつて。武も弟を供小若てぬ。左格別のて
長るう官。モロ。年勤小あつて。女児一人で毎日出歩け
ていざ。何事うあつて。他不被見弾をうける。
何でもそは。不引。竜で用の外の出る。とあつて。ぬ。父が友
しき。お対小。見派のあつて。小夜。友不さるる。しき。
地のすきと。あつて。血病氣。小引。竜で。懸りのを。あつて。

第四回

かくて翁おきなは一人ひとりおひまひひまひはふはふの目未めい親おや兄弟あにををいり
く。かの幸しあわせ八やちがが記し指さしをを訪うらゆ。元来もとより浮うるるととああららんんをを大おほ恩おん
ををううすすまま下したととああららるるののここををままどど人ひとおおののままををおお大おほ切きの
條じょうああるるゆゆままふふままののままをを切きららむむをを怪あやししままとと疑うひひままららい
見み非ひゆゆるるをを夫おとこのの禮れいとと恥ちゆゆ余あまええ大おほくく平へい生せいおお後ごららるる。
訪うらゆゆのの條じょうのの款くわんとと浮うるる人ひとのの此こゝのの便べんすすままききよよををおお明あ
けけ二ふた兩りょうのの金かねををおおももるる彼か人ひとのの心こゝろのの程ほどののままららんんととああららんん。
ああららんんととああららんんののままをを此こゝのの便べんとと使もちううてて後ごららるるを

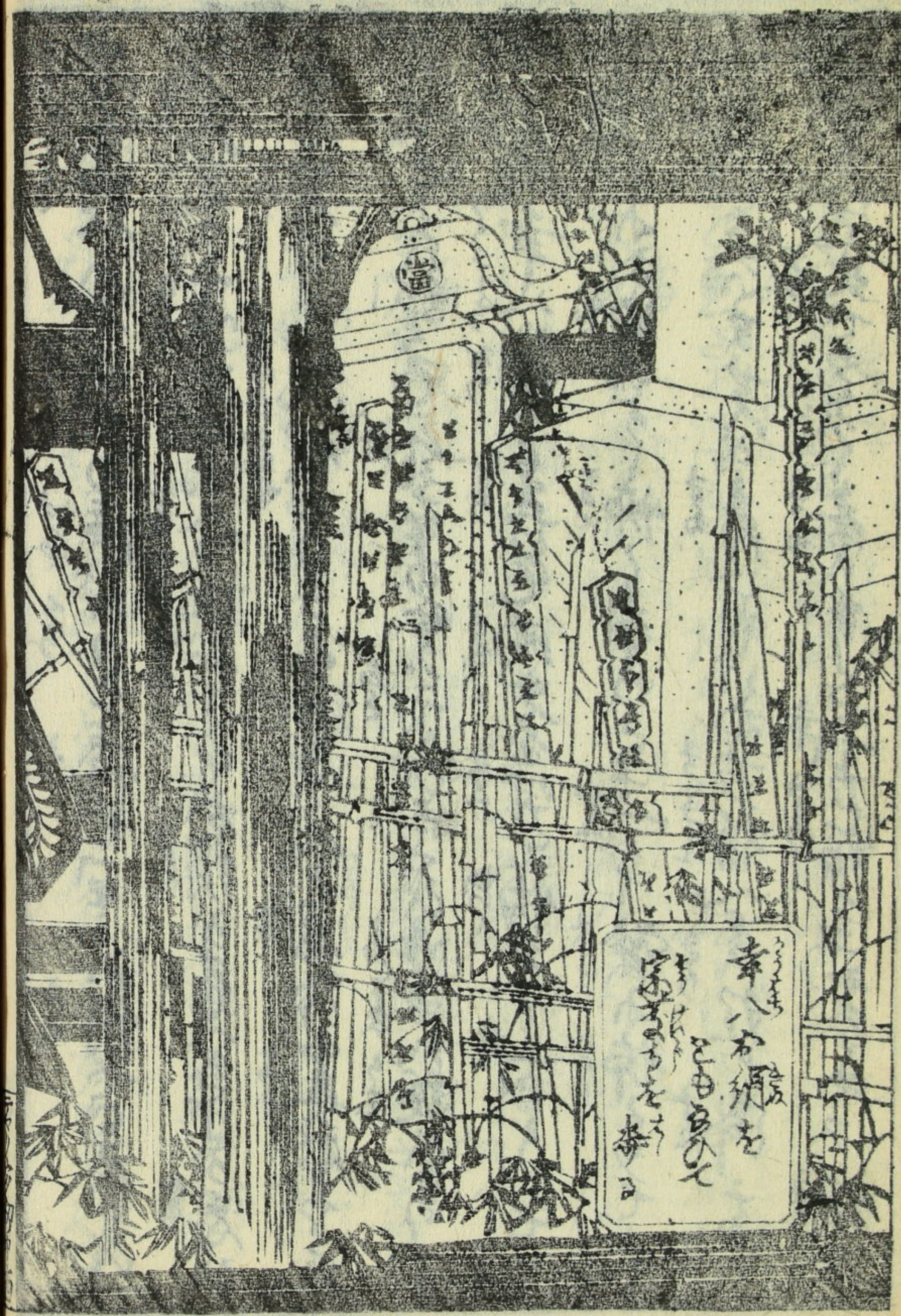
ららるる夫おとこももああ。聖せいののああららむむをを測とくく。彼か人ひとおお安あん堵どささせ。
恩おんをを測とくく斤しん兩りょうおおももるるととああららんん諸しよをを圖ずららぬぬのの身みののううをを
兼かみみななふふ何なに方かたのの人ひとのの何なにををううおお。若わかくくももままららぬぬわわららぬぬのの平へい
生せいああららんんぬぬ取とりり服ふくままららぬぬ一ひと回かいおお違ちがひひををななすす。安あんししととままららぬぬ格かく
りりぬぬ身みおおももららぬぬ人ひとののああららんんままららぬぬ。健けん赤せき金かねをを持もちててししららぬぬ。
ままららぬぬ後ごのの訪うらゆゆののままららぬぬ目め未めいととしてしてままのの恩おんををああららんん。
ままららぬぬままららぬぬととうう海うみ商しょう賈がのの女に目めををううととままららぬぬ。心こゝろををままららぬぬのの金かねのの惜おし
ままららぬぬ再またびびままららぬぬままららぬぬとと福ふくををままららぬぬはは惜おしささ。奈なに何なにおおももららぬぬててう

このことを知りてなる。然と極會名業まきど申巧夫な。あち
の田舎の呼子も。誰かかたりの人の中あ。若者くらへありけるが。
借とんをうり垂。所詮初あるうらうら。五月七日に花
勝ふかゆ。清くとあぶ。さまた月夜を送る。和く長
深ふ外まあ。指りまして。装の物とあり借るな。あ
い業ひま近の。拂匣ふあり。今宵夜あひして人なき。家
を抜い等か。あさ。あつ。決身を具ふ。若。息を連す。て改
ら。き。き。い。時。の。あ。ふ。あ。ひ。の。あ。赤。あ。の。あ。う。あ。ん。と。ん。ッ。ふ

し。東。け。の。う。け。ひ。を。く。あ。ら。ぶ。
名。按。を。交。へ。拂。匣。よ。り。し。て。密。使。う。ふ。拂。竿。を。ま。る。と。ゆ。紙
ふ。果。と。と。市。の。間。ふ。腹。と。使。と。人。の。床。定。む。を。候。け。う。が。
ま。ま。ふ。あ。い。平。生。と。う。り。諸。不。別。ま。う。と。り。ひ。あ。う。更。不。芳
ま。う。容。る。の。由。あ。う。ま。ま。衆。を。對。ひ。不。指。く。と。て。苗。吉。の。中
る。帳。合。等。用。を。あ。く。彈。く。青。さ。く。流。は。新。て。便。悪。う。
と。ま。果。る。を。候。身。の。長。さ。不。肘。枕。し。て。あり。け。る。が。我。ふ。由。有
ら。で。餘。味。と。と。室。時。睡。り。て。透。漏。る。風。の。襟。不。海。る
ふ。残。さ。つ。月。光。て。目。ま。ぎ。の。影。い。ら。う。更。く。と。こ。え。て。寂。寥

と見世の方ある焼火さしいと細くと狀をけまらぬと火の
時おありぬらんと考へても定らぬを今うらむ彼処へ往ん
と。途のちと三光ありぬ。出ぬ前より拍車く。心地はさ
どおきと。今宵不眠さるるありぬ。心弱くて惚れど
常掃連し羅字あり。控し揚て策と信火。小舎の
椽の二枚を。音せぬやうに不気味の庭の切戸の
迹。石を傳うけ吹風不氣やぬやうに構へて。心細く由
美夜中。小中。晝夜して。雲を移さし人通を。

小色
影ひぬまどとちの中。小音由まらぬ。碎客の熾弱あり
愛女とて。然も感以破落。且先杉の枝。猶非道の
所為をするもの。あき世ありぬ。と初更く。六却て。支那の
若日。岳に。軒下に。跡を。大の人の足音。聴覚め。吠も
言ふ。想下つ。群り。立て。買ひ。く。啜つ。おろり。小吼。くる。こと
の。惜。へ。飯。立。ま。の。あ。あ。き。と。の。町。を。さ。ま。ま。長。く。送。り
な。ら。ぬ。愛。女。の。死。中。を。さ。ま。ま。魂。を。く。死。中。致。慄。き。
瀬。く。中。晝。宗。交。ち。不。到。と。著。き。倍。何。処。より。運。入。んと。



江戸界隈の女児金と云ふ足を引き換ふんと
お福と云ふと云うことあるがその胸に小札をさす。何
卒らあるやうに云ふ。森定三のを使ひて悪んで入る
まゝ。史放おか物弟の金の細ひらひまひら。昔併うを匣
の挿筆。その位あるのませう。活ありと煙火ありと。官報
ありと云々の。四用をさして下さるまゝと。物の味をうら明て
紙の包と一品を幸八のおおかけ。幸八の刀で手を
拭き、世をあらうと。吻き、口指の涙あり。官報のふ。

ヤシク史の毒千毒。ナニと別お何指ありと。史の詮
方いらるものあるらう。マアと云ふまじはるか。帰る。殊お老爺え
かそきまふ。後をまて。毒ののを移して。夜中おとくまて。
モ、おとくまて。口指痛くも。あはれ。後指うきと。お互おつま
あ。昔併う近所まで。送つてあひらう。足さき。おま
先にお降り。ト刀を把て。服をさき。先とするを。お明い
めて。ナニ一人を。帰らまひらう。送つて。送らる。あはれ。おま
候。お角の昔併う。お殺あり。おとくま。この二品は。

招きよと宮をりし下さしきりしを止めて一はらも
まじりて。昔併の死が海をト互不長死の推問答。
あまし時刻をさしきりしちまじりしを不問うきを家船の声
も其不明鳥の鳴りしを不問ひの鳴りしを「ヤヤ」
夜が明きし子へトひつ障子を知らぬあけて。見
まじりし白と人死にせむるをさるりの来勢。まじりしを
へ得らむと。野色も其妻と瞿麦の偃てく見えけむ。
あまし。野色も其妻と瞿麦の偃てく見えけむ。

幸いゆきまじりし。今の右左の沈吟も出た。得の教を見
つれ。まじりし。あまし。サテ何招もあつち。今
まじりし。方いね。才不誤りのまじりし。誰か老茶を
不問ひし。不問ひし。不問ひし。夜中不問ひし。不問ひし。
あまし。昔併も此のありし。この位持のまじりし。親
教縁者とのまじりし。長の月日の食客の卒ね。恋
の種を一人まじりし。あまし。あまし。あまし。あまし。

軍とて其処ある現ひきよせ。佐持の送きとてさるる間。
 見えぬ敷調度さき。あき此のうへに初く小島く。其の
 として兩個の舟停まし。かの庭口より裏のうへを密に
 くらきくらきゆり

毬唄三人娘初編巻之中 終

毬唄三人娘初編巻之下

東都

松亭金水編次

第五回

子をあつゝ親のふの切あら。いそぎと知まて人情も。浮
 世の義理と他人のあ。その夜お宿が家出て。往方知
 まねがたまふ。傍き女兒と娘もさ。果の涙の雨借ひ
 殊きう母の病ふの床。日暮よりして人並不勝も女兒
 の貞実と。ふ不替て飛つるゆ。ゆるる天麻卷の魅

入つかるまき。いふあまあまきまてまりまりま。親同胞あま不ま欲まきをまうまけま。人ま不ま
指あさまうま笑まいまはまりま。已あままをまうまのま恥まらま。とま指あ病まのま瘡まらまとま
く。寒あがまちま不まさまけまらまがま相あ減まるま人ま由まとまままくま不ま傳まくま岐ま
てま初あままのま。そのま版あをま辱あせまさまめまてま心あありまをま尋あるまんまとま
人まのままま由ま不まあまるまんま。此ま処ま又ま彼ま処まとまさまらまひまてま也ま。又ま不ま知まれま
ぬまをままま不ま。日あ收ま積ありまてまるま未まきま。をまままくま書まてまそのま
明あるま未ま。次まあるま女あ兒まおま民まはま十六ま坊ま不ま懲まてま也ま。此ま世まをままま
んま地まいまままとまとま孫あ物まをまままるま人まあるまをま僥あ倖ま不ま。そのま都ま

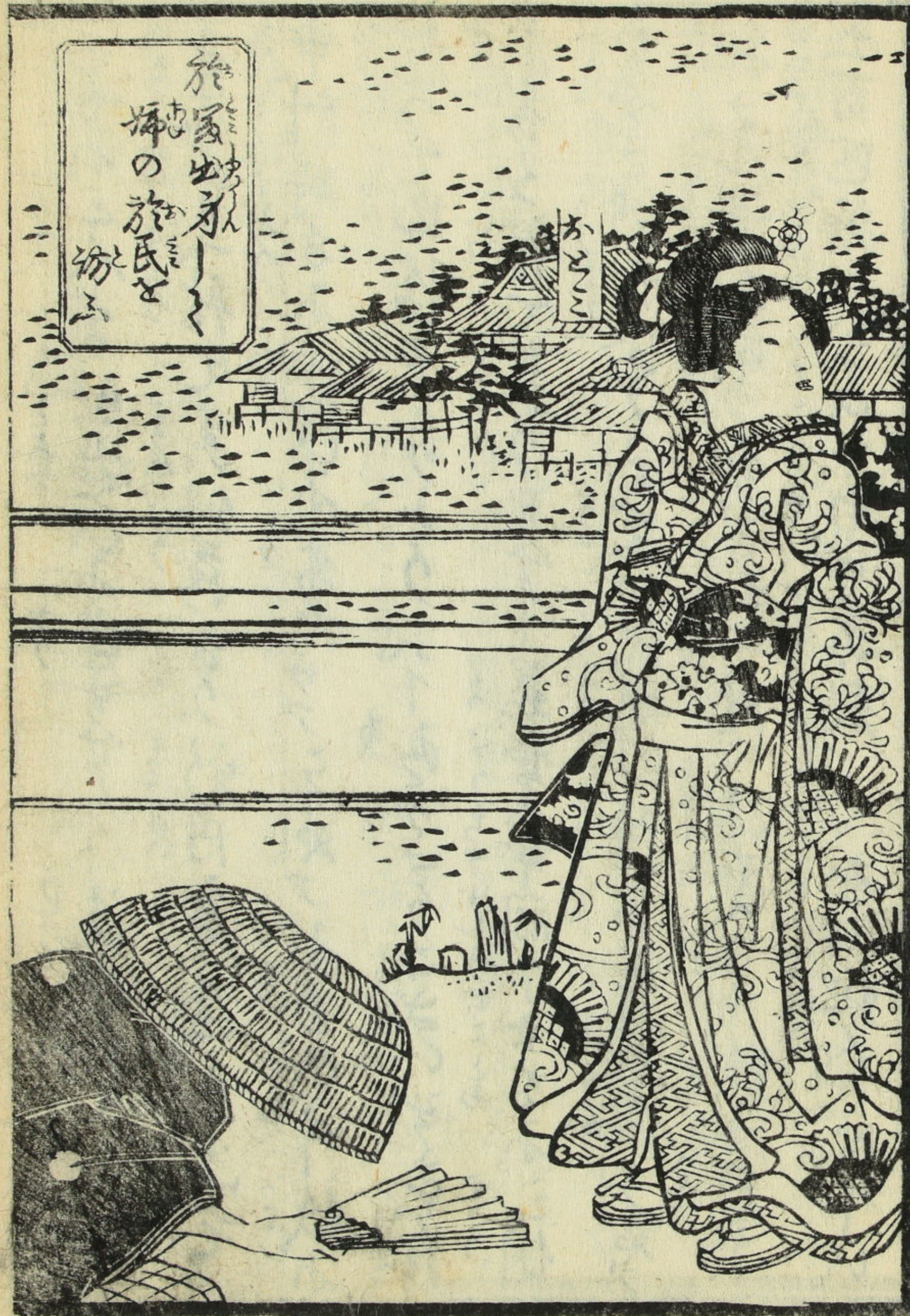
傳あ肉まとま名ま不ま傳まへまるま。餘あ優まのま座あ不ま出まてま常あ不ま鼓まらまちまをま
かまるま中まのまとまとま。世あ間まのま人ま由ま款あ待まをま。幸あ野ま傳あ吉まはま二十五ま
六あ男ま振あきま。陋あしまらまんま。こままま入あるま。生あ中まのま高あ貴ま
よまるま倍あらまんま。とま終あ不ま傳あ吉まがま新あ婦まとまありま。まま二ま年まをま
送あるまりまとま不ま。本あ家まのま女あ兒まのまおま家まはま十三ま母ま。右あ不またま病あ身ま
ありま。既あ不まるまのま年あ世まをまままらまぬま。然あるまままおま家ま由ま年あ以まるま不ま
家あ不まあまままてまいあ悪あらまるまんま。とま一あ縉あ紳まのまおま家ま老あ筮ま田ま
教あ負あいあ差あ去あ清あがま常あ不ま出ま入あのま屋あ敷あありま。そのま安あ方あ不ま

持えり。侍女不出。家跡をば。三男あるまじき由。男も
死を弟不譲らんと。手方等。紐を指あり。五月の
巻を看りせ。成人を候りて。突如。月日不冥守
りけり。脱不十八。果不ありけり。とき。父老去。弟由
禱せぬ。係て。老太弟の。恙来り。ま。跡を。更継
ぐ。仕の。食。未。弟。今。の。干。勝り。不。あり。けり。あ。ど。別。家。さ。さ。さ。た
時。未。ぬ。ま。ど。老。太。弟。が。嫁。も。た。く。困。る。ふ。つ。け。て。その。ま。ふ
り。不。けり。か。つ。て。三。年。を。う。果。教。も。く。て。あ。る。年。の。二。月。の。下。旬。日。由

藤不産。とら。屋。方。の。山。色。の。さ。ら。う。さ。吹。初。る。より。花。見。ん
と。老。る。老。さ。う。ち。む。と。て。東。の。比。叡。の。吉。祥。閣。音。羽。の
滝。の。あ。ら。ね。ど。も。ら。不。摸。ま。也。清。水。の。靨。青。堂。の。傍。り。あ。り
松。不。楓。不。枝。ら。も。か。り。被。岸。様。の。教。を。さ。さ。さ。柳。の。糸。を
ら。ら。と。も。て。貫。き。と。あ。ん。御。も。う。糸。と。啣。つ。風。流。夫。風。流。女
ゆ。と。ら。集。會。つ。直。下。せ。つ。て。名。不。あ。り。思。を。た。の。池。不
と。ら。あ。る。さ。ら。波。磨。の。人。の。水。と。の。残。と。懸。る。蓮。葉。の
水。不。流。め。る。気。を。さ。さ。他。所。不。あ。る。ぬ。風。雅。の。地。比。不

副ひともち一町ひともちの北きたにわらひて冬ふゆの夜よの風かぜをそらひてひらひ
あめあめの雪ゆきの眺ながめをくらみ天あまがあま賛あま賛あましる香かぐら糖あじ峰あきのうで
こまこまああおおぶぶぎぎ況あはれや春はるの花はなの比ひはひひひもああららねね糸いと地ぢ
ありありとと春はるのはる板いた塀べい又また紙かみのの松まつののねねとと榎えののの格かく子こ
根ね府ふ川がわのの背せ脱だつ石いし小こ主ぬしささとと床とこくくききりりととろろのの構かまへへ程ほど
小こ波なみうるうる鼓つづみのの音ね清しみずししきき声こゑ小こ唄うたのの節ふし越こええんんのの深ふかさ
ああのの折をりとと春はるのの滑なめるるをを徐ゆるくとと引ひああけけてて「ちトとかかののここ
ままららししままんんトとりりとと声こゑ波なみつつけけ「ハイいととままととトと敷しをを止とめてて互あ

おおのの家いえのの女によ房ぼううう年としのの比ひ二に十じ七しち八はちととろろのの美うつく女しよ綿わた織をり
純じゆんのの産うぶ辨べん菱あし一いっッつ小こ袖そで小こ黒くろ裾すそ子このの帯おび放はな縦たてむむすすび
ささげげ隙ひま子こをを穿うてて敷し入いあありりせせ「ヲヤやああちちいいおお家いえさんさん
よよくく尋たずねねてて来きてて下くだささつつととサさアあくくととああちちおおととろろヨよ保ほ不ふ
久くししががりりとと子こへへトとししををまましてしてけけ方かたのの小こ腰こしをを屈かめめ「枕ととろろ
かか尋たずねねひひままりりししととろろととろろモもウう種しゆ々々ああ取とりり電でんでで「ヲ左さ指さしとと
ららうう為なすすいいおおちちののゆゆもも波なみええ飛とぶぶ。マまアあくく大おほきき不ふ傲あは倖せ
どど。ヲをヤやおお供たぐぐ大おほ勢せとと子こ「ナニにままとと指さしててももどどいいままさんさん女によ



ともの小こ人ど。些遊び小きませらうト後を向て「そ方
をい山十へ往てま似落るる。形内あり物を小喫て。
申刻時小不迎ひ小来ぬ。サアころぬア小きひと紙小
花つて出はをらけらう。ハイあざうござのまきと。た
根あり往て糸のまきすト恙堂中問下女せ小。こ個
の意ざ彼方へむ。お返りえ送り障子を締め「ころぬア
おさん様小おありいぞ。お土産の箱むらうト紙小包う
五百匹柄のお民の氣の毒教「ヲヤおち他人がまうい。

は根をいふお止ヨト推戻すのをまこお返「ナニ疎小
かおまくって。か氣の毒どけきとまご何根由昔傳の自
他小由ありまうらう「少あり所う突小モウ何の中での氣
の毒どヨ。サア温くまうたか茶をニツ「ハイありがころぬア
花根と物さん由困つこののど子。傳昔えとの人人の流
人夫仙合あり昔人こと安まうこけけ。何花あてマア天
死を「花根サ疎小突うあつて花「い人であつとけき
と。壽命づくの往方うあり。史毛昔傳くこく来てらう。

十年をうけて侍小飛で。夜をともく。替古をまてうら。女
をこそあまを報小あちあア。人小負やうとも名のまあまご
うらひけまご。世名をも昔併の時。侍者小由劣らまの
とをごとひりまらサ。そのお蔭あア。今以て才の由成
を除れどあうら。候勾侍者さん。飛と時より。よまご
由あまはんヨ。あう何その時候うらと。お蔭對候まご
あア。心細いと名つご。まごのまごのまご大爺の。かゝる入
大且胎の。あままの由お死にまらう。今ぢあア。おぢが
あま

さまの。因縁ごとく。何時ど世にああかり。ア
由の昔併等でも。あまの甥妹小差ひる。左指してまご
い何ぞの時。お情の中。以使りおるらうと。業はあつて
飛ひまご。あまの方向か。借神。昔併のまご。飛入で。此
かをいも。大まな。お遠まご。竟く。往帰く。今以て。お
小由。あまの。世を沙汰をして。飛入。入う。あまの。身安うら。
持物の。文を。をさる。小。愈流。り。物を。り。で。飛。音。み。物。い
つもの。左指して。入らう。と。あまの。大爺の。風流。の。ある

かたが子一た振井風流とりんをもちのぐせりるで満中と
さうらうらうの望い人のちうふもつていけるけきとた振が
あつせん然して私の僥倖なとあやふ何れも歎いと
りんりのいさぶつてんさまふヨ一とてやアおちのかち愛
がとらうとらうあまア一アレ探せんを振る舌味ハ除て探
おのり人でございまいの「た振く」てやア笑小微倖と
今ぢやア老爺さんお母さんお。か死亡あさう一行
んのはたふりまごまごまごりず。探せんが弱く由満りて

か存在。お後射身お由多けきとどの何処お何振と飛
あさう一向風の倂りゆあ、探おん細いあうとけきとど
かあがた振りん所お存在とて言ふ。お二振りのヨ探
んお望うア近うちお。お非をぶらひやきりヨ一ア一何卒
来てちるんさいまお今日怒々まのこハ対のりて由あつま
せん。昔併由今まの侍女であつてけきと。あつて
アアアアた振して由あつてけきとあつておと人おんを五
くおむき女房おまの史お探ちやア彼親もひ。若く

ねぼし〜のけとど。元太の羊のゆり。たて不忍不居る
といふ。持えへねぼしと。何れか。又も極るが。世といひのま
う。そのことを。新まう。と。あつて。あつて。このサ。まう。ま
う。何卒。あつて。お。異る。ま。あ。古。極る。そ。う。や。ま。ま
何れ。ど。古。極る。い。伏る。う。二。日。の。う。ち。是。極。付。て。お
め。お。あ。ら。う。お。屋。敷。の。お。な。と。大。爺。の。お。な。を。多。海。本
つ。け。て。あ。つ。て。お。さ。せ。下。出。は。考。紙。と。硯。茶。お。家。い。り。よ。せ
ま。う。く。と。書。て。出。せ。お。氏。も。お。う。く。一。つ。極。く。本。極

の屋中へ。世田屋人さん。う。ま。う。く。お。屋。敷。へ。ア。ア。流。石
堀の向。ご。子。ま。あ。う。二。日。お。性。ま。ん。ヨ。一。つ。何。卒。あ。つ。て。お。異
る。ま。あ。う。ト。何。れ。の。影。一。お。も。お。あ。ら。う。ち。裏。の。子。供。と。教。へ。つ
れ。へ。あ。ら。う。酒。さ。ま。お。は。様。あ。ま。の。大。慈。院。ま。ま。お。持。ま。り
ま。ま。を。忍。ぶ。お。さ。一。層。ま。う。何。れ。の。ゆ。ま。い。け。と。始。め。て。お。あ。つ
て。怒。し。か。盡。可。マ。何。れ。持。ま。ん。お。持。ま。て。ま。い。の。ま。い。の。ま
か。の。毒。ま。ま。一。ナ。子。の。ひ。ま。ま。女。と。あ。つ。て。各。僧。が。あ
と。一。人。ご。う。階。上。あ。ら。う。出。ま。て。何。れ。の。あ。つ。て。流。石。ま。ま。お。持。ま。り。

帳とをりて代りてあつて困るのサ。我一も出代り給ふ
 今回ハ世世後が受けても年の住まのりて重うとせよ
 ホニ一入ぢやアか困りてらう子。も涙湯も住も須てお
 出ろ二三その住まらア隣の狭さん不侍んて住ろて
 けきどかあやけろふ不自由でス。ト久しく重ねど好
 妹隔ハあつぬおろろ。世の救かさうくあつては
 そのおろろ。遊び不守り。美堂婢女時刻由うと何
 ると。民ハ支さふ氣と配り。祈りし酒と蕎麦をて飲

侍。南あふ及び。お夏ハ好不帳と告。住人引の
 帰りけり

第六回

去ハ涉。茶が系。近き。派町とある。の多。北の廓。本
 程も多。編笠。茶坊の。玄。ゆていと。旅り。了。所。ま。う
 衆。り。き。人。の。多。く。住。ま。朝。不。炊。く。米。ま。の。又。小。索。む。る
 佛。い。ま。き。者。し。者。う。人。由。あり。別。て。その。容。り。び。り。氣。不
 足。る。支。持。の。者。あり。け。が。良。人。ハ。二十。と。あ。る。ぐ。澤。家。ハ

みそち
二十日まじりて。感づるがごとく。眼鼻もろろ
けえ。電致つて。白く。あつた。衣もろろ
いり。方の。あつた。怒れ。人品。脊。た
低く。て。女。修。の。女。良。人。長。病。不
形。寧。女。の。細。煙。り。ゆ。辛。苦。不。瘦。て
細。も。小。沢。洗。滌。候。針。糸。か。う。腰。の。務。ぎ。也。
湖。く。送。り。月。と。日。も。必。び。と。年。紙。一。あ。る。良。人
い。澤。不。む。ひ。今。さ。う。い。ふ。由。長。病。り。く。互。不。深。の。務

あつた。い。ふ。か。い。と。う。ま。あ。つ。不。史。婦。と。あ。つ。て。十。未。ま。う。い。の
成。い。え。未。果。致。く。あ。ま。務。と。い。ふ。あ。つ。ぬ。ゆ。あ。人。う。い。ま。方
の。働。き。を。ま。の。暑。く。あ。く。寒。く。あ。く。月。日。を。送。る。と。あ。つ。不
不。圖。く。い。ま。う。う。の。病。ひ。ま。え。ち。あ。つ。と。治。ら。う。い。あ。つ。新
が。病。く。ま。う。あ。不。昔。の。腕。の。病。さ。あ。う。い。あ。つ。何。の。ゆ。ゆ。
ま。う。い。あ。病。不。治。は。病。い。ゆ。て。あ。つ。の。先。ま。ま。ゆ。自
ゆ。不。動。う。い。食。物。を。う。人。並。で。終。へ。世。も。利。ぬ。と。い。ふ。あ。
ま。不。治。格。く。業。病。う。と。自。己。ま。あ。う。日。果。ま。る。あ。う。併

あり。そのを不届くと強合ころ。是れ承りてかおのよふ
 うりてその場の難の通までそのむと難いふ人殺し。その
 頃友への詮議とせり。其時陽るがの住居の年月日
 うりてその中の母の消こと突く親びはあろう夫法存に
 へ突く至取ころを言らると。初めする人のあつて衣。未言ころを
 多く申すへあり。その店賃の舟いのを取得ふころ未言て
 後ゆきく言ことあらものも。未熟るころの昔傳らる
 業幽ふころそのうちなるもの。何卒と弱武の老翁の

方へ階被きり。せめて出入の帳しやう仕入りのころの
 への誰を頼りきり傳りあり。其後突ハ母の死亡まら三直
 立ちあふ老翁由冥途の人とあり。跡ハ方の老翁常
 妹兩個のまらくハ。余縁付ころハ母。母の妹の人
 傳で町所さく定ふ不知るは。大恩うりく。兩個の隙終
 小田まのまぬ因果。さぞ不孝の女見せ。とち後ゆきま
 あらうりく。親の心を汲みとる人あつてお血の涙とど
 べの板やうをかちゆき。そのおねころのあつてるる金くた板

いふはにまはれぬ。言にて宅を強出する也。その時より
 知まらぬ。今も思慮無の縁なき。明らぬ。の竟る。相も
 除く。い。指。ま。と。り。ぬ。ち。若。を。氣。不。障。つ。は。思。し。く
 ろ。と。し。ま。い。ト。り。ぬ。を。長。人。グ。じ。と。ら。ぬ。を。自。己。が。氣。不
 障。ら。ず。事。づ。い。は。方。由。の。こと。を。ぬ。れ。ぬ。由。り。強。き。也
 ざる。が。指。あ。つ。く。て。あ。く。と。兩。個。を。折。ん。ど。強。也。也。あ。
 概。あ。い。他。の。も。い。も。あ。ら。ず。早。田。果。同。志。と。ら。い。あ。の
 左。方。の。お。蔭。を。兩。小。ゆ。ら。し。ま。ぬ。あ。小。ゆ。ね。ま。じ。ん。九。人。三。百。の

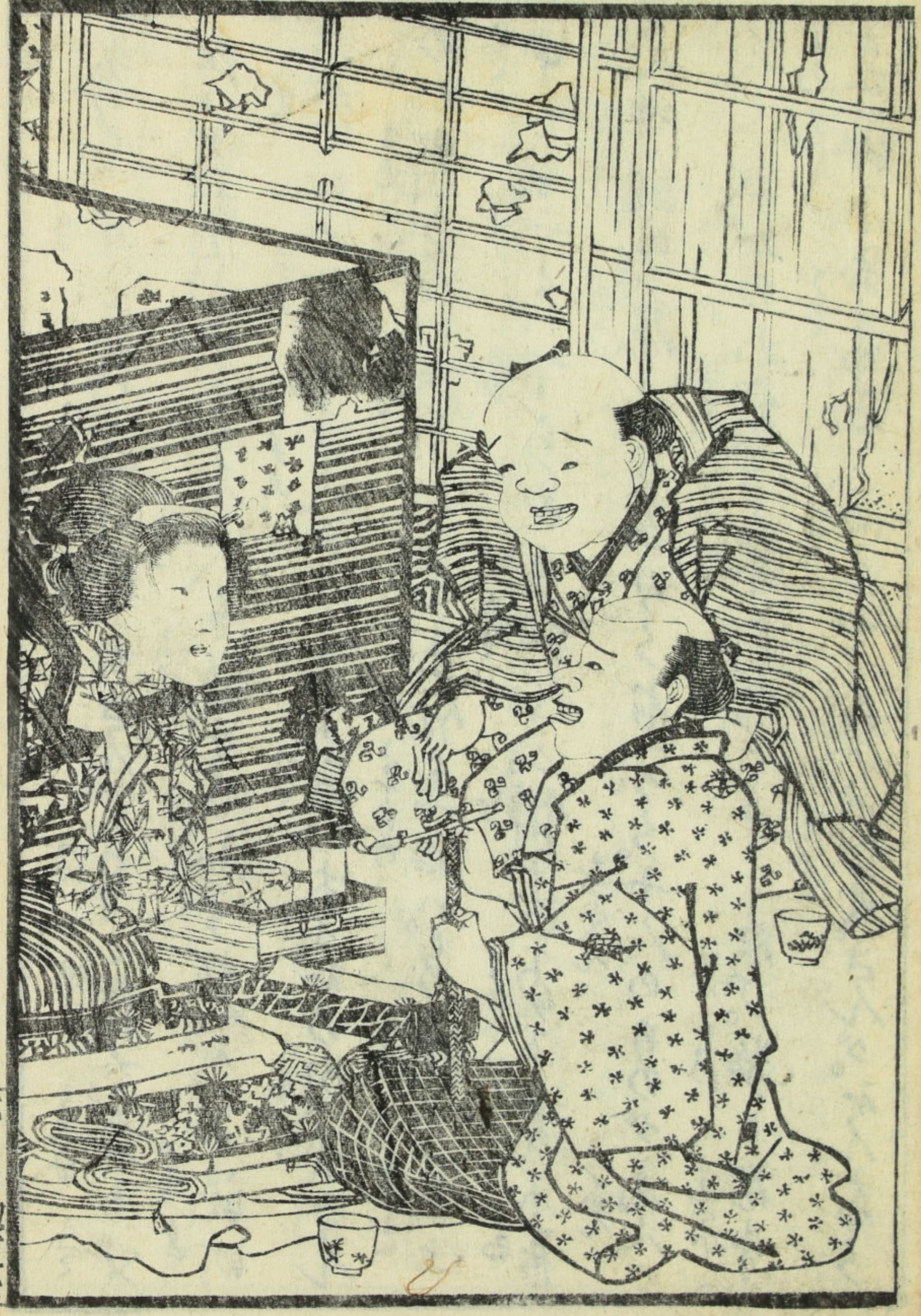
瘦。世。帯。ま。の。今。日。まで。湯。多。り。粥。多。り。嚙。つ。て。病。の。ゆ。き。方
 の。賢。い。む。の。ら。ち。で。り。初。映。不。洋。ま。ぬ。を。ら。ぬ。様。し。く。わ。り。の
 唱。字。何。ゆ。か。ゆ。會。意。無。病。時。そ。ら。が。来。ら。ず。兄。才。不。教。を。合
 せる。が。ゆ。未。り。今。の。辛。苦。い。昔。影。し。と。あ。る。ら。む。が。あ。り。ゆ
 ま。や。ら。ず。平。々。光。治。の。こ。の。症。が。疾。こ。出。て。こ。の。難。儀。也。弱
 口。あ。小。業。未。り。と。あ。ら。ず。悪。心。を。仕。こ。ら。ぬ。あ。け。き。ど。そ。う。方。不
 潔。い。ち。の。ひ。を。う。け。ぬ。兩。個。の。奴。等。を。お。放。す。此。方。の。つ。み
 不。更。掃。と。あ。ら。ぬ。と。あ。の。怨。讒。が。つ。ま。ま。い。い。立。成。世。を

物づく園病えんびょうをさるのこあるま。名もあせぬらの業病がふびょう。又
 のこもここもこに足もまも。初ぬから小出あるとあらう。たかじと
 を方のま実貞操神女あまのまことの懐まなごころで。何時を形かたち
 とあざむ難もゆせまあまのい。兩個ふたつが懸くことをもぬ。こも幸さちを
 か測かさら。そのよもあまの此こゝのあらめま喜あはせともまら
 りべうあ。かるおらう門かどのきらと。いちとあらうのこや
 まんトまとま出障いであら子をあけ「ハイどまらうていよ
 まらトつひもいふまぬ西個あまつま石いし番ばんの西入あま
 のこもこ

「エレこあこの幸ハさんと名作なまはう「ハイあ店格てんかくで
 ぶらいます。おあさんうらぶらうらトあまの男おとこら小
 手て振ふぎ。小収こさとつらして後あとのうこに控ひかへ一ひと権けん士しら
 大被おほ小果こぎううりのを脊せ負おとむろぞ。兩個ふたつをさ懸か
 小腰こをうけ「お初あ小あふ小こかをまら。私わたしどもい
 浦うら前の赤治あかぢの店てんのりのでぶらいます。全体ぜんたいをあ
 の根ねもが。満まん望ぼうの替か古こをりくまもまけすが。今いま度ど
 二個ふたつを一の赤色あか屋やで。師し匠しやうさるの丈だけ俊とひ。二座ふたざ

の芝居も由佛後流が。見ぶの小まるとの。晴ま。赤活しゆりそまるとの。が。藤林お衣。左庄と折く方。イヤコ。中々立井。九或ひ。土中をうけまひり。好この呉服も出来。さくまを仕とるは。何方が。帯。入の仕立屋もあります。すけ。あ。の。足。跡。あ。ア。

あつく井く往くト内長さんが。息を揉で。余。あ。の。世。ま。あ。く。と。と。ろ。人。も。あ。ま。り。あ。ら。わ。ら。ぬ。が。こ。の。泥。町。の。形。り。の。新。お。幸。八。さん。と。の。方。が。あ。る。と。の。内。長。さん。の。お。前。さん。の。女。で。と。と。あ。ま。り。仕。立。お。の。の。席。の。お。花。土。中。心。の。二。と。の。下。ら。の。お。利。ど。ろ。情。い。い。お。不。意。お。居。て。世。間。を。度。く。あ。ま。さ。う。あ。ら。う。十。人。の。の。の。が。九。人。の。あ。ら。う。と。の。お。前。さん。お。か。れ。こ。の。中。一。女。ア。好。く。お。身。立。派。不。出。ま。あ。ら。う。と。ア。あ。ま。す。の。て。内。長。さん。が。と。ん。あ。ら。う。



てまへ ちまひ まへ ちまひ
まへ方とちまひを修て。まへお須えんおまへんてとこ。
仕立の注文の細り小書つけ。この中お入まへことある
と。分付らまへてまへつまへてまへつまへて下まへ
まへトいひつ。袂裏を解ひ。新絹綿子紗綾
結酒琥珀柳條古綴子および。金襴さきも堆言
く。徒然梅の類ひもある。お須いことつて「ヲヤ狂
るね。マア何人が私をどのやうお云まへてと。此後
このまへ人が長い病氣で書へ方小由。困てまへて

由ある かまひ つらぎ ぬひ
本縫りの。大藏細の縫いのまへつて他のるまへ
合を。此方のるまへおあへせては。舌まへけまへて通
の衣裳は殊小結構ある品。何指お私めい出
まへまへつまへ「古指あの一まへとあおまへを一
帯餘でまへのまへの。是非おまへのことまへしまへん。
他のまへのより面倒お衣裳のまへてまへのまへん。
仕立はへいれおまへのまへの。まへの不厭目いまへのまへん
強つらまへのまへの。裡まへまへまへのまへのまへのまへのまへの

を神の情^{こころ}にて授^{あづかる}けりるるのめあ^{あはれ}あ^{あはれ}ん^{あはれ}列^{あはれ}ぬ業^{あはれ}
 とふ^{あはれ}あ^{あはれ}が^{あはれ}。是^{あはれ}の^{あはれ}又^{あはれ}法^{あはれ}針^{あはれ}線^{あはれ}。出^{あはれ}ま^{あはれ}ぬ^{あはれ}と^{あはれ}あ^{あはれ}ある^{あはれ}
 へ^{あはれ}ま^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}を^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}り^{あはれ}て。ま^{あはれ}あ^{あはれ}を^{あはれ}け^{あはれ}ら^{あはれ}す^{あはれ}位^{あはれ}
 と^{あはれ}け^{あはれ}る^{あはれ}

越明三人根初編卷之下 後

三ノ巻初ノ下

